

協会活動状況

(特別の記載のないものは、すべて会場は事務所において)

●昭和五十六年一月二十六日(月)
大きに検討していた「知床国立公園の自然保護に関する要望書」(内容は前号にて紹介済み)を北海道生活環境部長と自然保護課長あて提出するとともに、関係方面へ発送した。

●二月十六日(月)
会報第三六号できあがる。
●二月二十一日(土)
常任理事会

出席者 新妻、門脇、狩野、加藤、滝口。
主な議題

- 一、第十二回北海道自然保護シンポジウムについて
二、日高中央横断道路反対決起集会について
三、五十五年度の収支決算のみとおしについて
四、本会のPR誌の作成について
五、団体会員に対する会費の増口運動について

●三月二十三日(月)
会誌第二〇号(道路特集)を会員および関係方面に発送した。
●三月二十三日(月)
常任理事会

出席者 新妻、狩野、長谷川、滝口。
主な議題

- 一、団体会員に対する増口依頼文の検討
二、本会のPR誌についての文案検討
三、昭和五十六年度の通常総会の日時を五月十六日とし、会場の交渉をすすめることにした。

四、五十五年度の収支決算と五十六年度の収支予算についての主な点について検討し、次回の常任理事会までに案を作成することにした。
●三月三十一日(火)
自然観察指導員講習会を北海道が後援する旨通知があった。

●四月一日(水)
自然観察指導員講習会を真狩村も、地元として後援する旨通知があった。

●四月三日(金)
(財)日本自然保護協会の工藤父母道氏を迎え、自然観察指導員講習会の打合せを行なった(本会よりの出席者 新妻副会長と事務局)。

●四月六日(月)
自然観察指導員講習会を、北海道教育委員会も後援する旨通知があった。

●四月二十二日(水)
常任理事会
出席者 八木、新妻、狩野、長谷川、滝口。

主な議題
一、五十五年度の収支決算について
二、五十六年度の収支予算について
●四月二十九日(水)
自然観察指導員講習会現地打合せ

出席者 工藤父母道、八木、宗像、梅木、進藤、島田、後志支庁より大野、金野、真狩村より筒井の各氏が現地に集合し、野外実技指導のカ所選定や講習会の進め方について協議した。

●五月十日(日)
ウトナイ湖サンクチュアリー・オープン第一号サンクチュアリーとして、いよいよ五月十日より一般公開となった。休館日は毎週火曜日、開館時間は九時より一七時まで。入場は無料。

●五月十六日(土)
第八十四回理事会
出席者 八木、門脇、新妻、長谷川、加藤、狩野、門村、赤嶋、田尻、山本、泉。

議題
一、五十五年度事業、収支決算報告
二、五十六年度事業、収支予算案
三、新入会員の承認
四、その他

●五月十六日(土)
通常総会
別記のとおり開催された。

●五月十九日(火)
常任理事会
出席者 八木、新妻、長谷川、狩野、大山。

なお、昨年当協会で実施した委託調査を担当した石川、阿部、大泰司、鮫島、高畑、辻井の各氏も出席し、各調査の内容及び結果についていろいろと意見の交換が行なわれた。

昭和55年度収支決算書 (55. 4. 1.~56. 3. 31)

1. 一般会計

取 入 の 部		支 出 の 部	
(基本財産運用収入)	(108,500) 円	(管 理 費)	(5,916,643) 円
基本財産利息収入	108,500	給 料 手 当	3,835,200
(会費収入)	(4,020,000)	福 利 厚 生 費	420,596
個人会費収入	1,190,000	会 議 費	64,260
団体会費収入	2,830,000	旅 費 交 通 費	157,260
(事業収入)	(103,500)	通 信 運 搬 費	171,680
一般事業収入	103,500	消 耗 品 費	90,745
(寄付金収入)	(56,090)	印 刷 製 本 費	61,000
(雑収入)	(139,998)	燃 料 費	160,678
受 取 利 息	67,563	光 熱 水 料 費	51,278
雑 収 入	72,435	賃 借 料 費	848,701
(繰入金収入)	(1,641,924)	租 税 公 課 費	2,500
特別会計繰入金	1,641,924	諸 会 費	32,500
(前期繰越収支差額)	(1,261,179)	支 払 手 数 料 費	1,805
		雑 費	18,440
		(一般事業費)	(1,113,421)
		(繰入金支出)	(300,000)
		次月繰越収支差額	(1,127)
合 計	7,331,191	合 計	7,331,191

2. 特別会計

取 入 の 部		支 出 の 部	
道庁調査受託金	2,000,000 円	道庁調査	2,000,000 円
会社調査受託金	4,779,700	調 査 費	1,800,000
受 取 利 息	5,924	一般会計繰入金	200,000
		会社調査	4,779,700
		調 査 費	3,343,700
		一般会計繰入金	1,436,000
		そ の 他	
		一般会計繰入金	5,924
合 計	6,785,624	合 計	6,785,624

北海道自然保護協会

昭和五十六年度通常総会

昭和五十六年度の総会は、五月十六日(土)午後二時から北海道婦人文化会館

で開催、五十五年度の事業ならびに収支決算報告、五十六年度事業計画案ならび

に収支予算案が審議された結果、原案どおり承認された。
なお、終了後、スライドを中心とした「インドの自然」と題する会長の講演が行なわれた

口受託調査事業の概要

●石狩川中・下流域(神居古潭より下流)における鳥類生息調査報告書

一、河川敷の鳥

河口域を除く流域では五四種が記録されたが、スズメ目の種が六七%と最も多く、コウノトリ目、ガンカモ目、ツル目チドリ目などの水辺性の種が比較的多いことも特徴的である。生息密度は、高い場所ではha当り二〇羽をこえる。

二、河口域における水・渉禽類

陸性の鳥とともに水鳥類が多く、三年間の調査で八八種が記録された。このうち水・渉禽類は五五種が記録され、中でもシギ、チドリ類は、三〇種が記録された。石狩川河口は、シギ、チドリ類を中心とする水・渉禽類の渡来地として特徴づけられると考えられる。

なお、石狩川中・下流域で記録された鳥類一五種のリストと二四種のカラ写真も添えられている。

(発行者)道自然保護協会、三三頁、図二二、表三。調査担当―島田明英氏)

●積丹・古平地区植生調査

積丹町、古平町にまたがる約七〇〇haの植生調査である。

一、川上地区の美国川沿いの平坦地は、耕地跡に再生したノリウツギ、チシマザサ群落が分布し、美国川から少し離れたところは、ヤマハンノキ、オノエヤナギヤチダモ、マカバ、ハリギリ、ミズナラホウノキなどを混える広葉樹林となっている。

昭和56年度収支予算案 (56. 4. 1.~57. 3. 31)

1. 一般会計

収入の部		支出の部	
(基本財産運用収入)	(120,000) 円	(管理費)	(6,091,000) 円
基本財産利息収入	120,000	給料手当	4,003,700
(会費収入)	(4,175,000)	福利厚生費	421,000
個人会費収入	1,275,000	会議費	65,000
団体会費収入	2,900,000	旅費交通費	160,000
(一般事業収入)	(370,000)	通信運搬費	175,000
(寄付金収入)	(50,000)	消耗品費	90,000
(雑収入)	(140,873)	印刷製本費	60,000
受取利息	70,000	燃料費	161,000
雑収入	70,873	光熱水料費	52,000
(特別会計繰入金)	(3,600,000)	賃借料	850,000
(前期繰越収支差額)	(1,127)	租税公課	2,500
		諸会費	34,500
		図書資料費	10,000
		支払手数料	1,800
		雑費	4,500
		(一般事業費)	(1,560,000)
		(独自調査事業費)	(100,000)
		(繰入金支出)	(400,000)
		(積立預金支出)	(306,000)
		減価償却積立預金	158,000
		退職給与積立預金	148,000
		(次期繰越収支差額)	(0)
		次期繰越収支差額	0
合計	8,457,000	合計	8,457,000

2. 特別会計

収入の部		支出の部	
会社調査受託金	12,000,000 円	会社調査	円
		調査費	8,400,000
		一般会計繰入金	3,600,000
合計	12,000,000	合計	12,000,000

二、弁慶地区は西側に一部カラマツ林があるのみで、殆んどがミズナラ、シラカバ、ハリギリ、ヤマハンノキ、マカバ、ヤチダモ、バッコウヤナギ、オニグルミなどを主とした広葉樹林で、チシマザサの密度も高い。

三、婦美地区は、クマイザサ、ススキ、カモガヤなどの多い耕地跡草原と、シラカバ、ミズナラ二次林、カラマツ林の樹林地帯とに大別される。

四、古平地区は、広葉樹林が多く、チシマザサ、クマイザサの密生地も多い。チ

シマザサは三m近く、ネマガリダケ的なものが多い。ほかにカラマツ林、トドマツ林もめだが、トドマツ林の成績はあまりよくない。

(調査担当 高畑 滋氏)

ここに来てびっくりしたのは、大学の構内に野鳥が多く、しかも人を怖れないことです。それで近づいてよく鳥の観察ができるので、さっそくスケッチをはじめ、また図書館から「インドの鳥」という本を借り出してきて、多少調べています。きてまもない頃、パーティーで私の



インドの

自然保護運動瞥見

八木 健三

一九八一年一月末に、このインドの北部(ニューデリーから一八〇km北)にあるルールキー大学に客員教授としてきました。かつて私がピッツバーグ大学の客員教授のときの教え子の一人である P.N. Gupta 博士がこの大学の地学教室の助教となり、「実験岩石学」の実験室を創設するので、助力してほしいということをやってきたのです。いま週二回ずつ実験岩石学の講義をしていますが、主任教授をはじめ多くの職員も出席し、学生も実に熱心に聴いてくれます。

スケッチブックをみた副学長のナレイン博士（ルーキー大学は州立でウッタープラテッシュ州の知事が学長を兼任、したがって副学長が事実上の学長）が「いい人を紹介しましょう」といって引き合せてくれたのが、中央建築研究所長のモハン博士でした。さっそくその翌日の日曜日の早朝モハンさんが会長をしている野鳥観察会の会員一同と大学の付近の探鳥会に参加しました。ルーキーは小さな大学町で、町の大半が大学でしめられ、その中に私の宿泊している「アジアアフリカ会館」もあり、たいへん落ちついた美しいキャンパスです。それでそのキャンパスのはずれからずっと原っぱの中の道を歩き、陸軍基地——といっても工部部隊で全然鉄砲などは打っていません——のまわりを見てくるというコースで時間は二時間ほどでした。その時間の間に見たのは何と三〇種類を越えました。

スズメ、ムクドリ、セキレイ、カラス、モズ、メジロ、トビ、ハトなどは、どれも日本のそれとよく似ていてすぐわかりますが、全く見たこともない美しいハチドリ、尾の長いドロゴ、美しい声でなくグリーン・バルベツト、いつも五、六羽で歩いているので「七人姉妹」とも呼ばれる、パプラー、赤いクチバン、青い背、真白な胸のカワセミ……などが眺められすっかりうれしくなっていました。そんなわけですが、このところせつせとスケッチをしていきますが、もう二、三〇の画ができました。

モハン博士は、その他にインドの「自

然保護協会」や「ワイルドライフクラブ」などの会員で、本務の仕事のかたわら、これらの自然保護関係の仕事にもかかわっているようです。この間は、ワイルドライフ主催の「野生動物の絵画展」が建築研究所の講堂でひらかれたのでいって見ました。

一年生から高学年生まで、それぞれのグループが思い思いの画をかいていましたが、「鹿を襲う虎」、「荷物をほこぶ象」、「羊のむれ」など、いかにもインドらしい画が多かったのしみでした。そして、それぞれ一等賞、二等賞……などがありました。全参加児童にそれぞれ学年にあったクレヨンとか水彩とかの賞品が贈られて喜んでいました。父兄も大ぜいつきそって来ていました。ここで私に日本の語をしてほしいという注文で、オーバーヘッド・プロジェクトで、画をかきながら、北海道のタンチョウヅルとハクチョウ、佐渡のトキの語をしてあげましたら、皆大よろこびでした。

自然保護協会やワイルドライフクラブなどの会誌は月刊あるいは季刊で出されているようですが、それをのぞくとインドでも自然保護にとりくんでいる様子がよくわかります。面白いのは「タイガープロジェクト」に過去七年間に五〇万ドルが費やされた」となどというニュースがあったり、「虎のすむジャングルを歩くより都会の道路の方がはるかに恐ろしい。交通事故死は虎の被害による死者よりずっと多い……」といった記事で、さすが虎が住んでいるお国ならではの……と

思われました。その虎も減りつつあるので、人間と共存しつつ虎を存続させる方法を考えているので、北海道のヒグマのことを思い出されました。

また、子供たちが野生動物を観察できるようにナベリスコープのつくり方なども書いています。かなり子供たちに焦点を合わせている点は、わが北海道自然保護協会もとり入れていいところでしょう。

このように野鳥が多く馴れているのは生物を愛われむという仏教やヒンズー教の伝統の故かと思いますが、さらに各地にサンクチュアリーがあつて、ここよりもさらに多くの鳥がみられるということなので、来週でかけるのを楽しみにしています。

大学の構内にはほとんど車をみかけません。人々は大部分歩くか、自転車、スクーターにのつているのはかなりのエリートです。戦後日本で流行したリントクがここでの主要な乗物で、人々は「リキシャ」とよんで愛用しています。こうした静かな落ち着いた環境にいと、いろいろ新しい考えも浮かんできます。「果して日本はインドよりも先進国なのだろうか」などと考えさせられているこの頃です。（二月、インドにて、会長）

お知らせコーナー

◆北海道自然観察指導員講習会の開催

最近、各地でボランティア活動による自然観察会が盛んになっていますが、このような自然観察会を正しく進めていくために、自然保護の意識の啓発に十分応

えうる自然観察指導員を養成し、自然保護思想普及の核になってもらうことをネライとしております。

主催 (財)日本自然保護協会、本協会
後援 北海道、道教育委員会、真狩村
期日 八月八日(十日) (二泊三日)
場所 道新羊蹄自然の家 (真狩村字社)

講師

青柳昌宏、筑波大学附属盲学校副校長

外 五名

参加資格 二〇才以上

募集人員 六〇名(道内五道外五)

参加費用 一〇,〇〇〇円(主催協会会
員は八、五〇〇円)

締め切り 七月二〇日(月)

申込方法 返信用封筒同封の上、住所、
氏名、電話、年令、性別、所属
団体、主催協会の会員か非会員
か、自然観察会などへの参加経
験の有無を明記して応募
申込先および問い合わせ先 当協会
その他 受講終了者には「自然観察指導
員」のライセンスが交付される。

昭和五十六年六月一日発行

〇六〇 札幌市中央区北一条西七丁目
広井ビル五階

発行所 社団法人北海道自然保護協会

電話 〇二二六(一六五八六代)
〇二二五(一五四六五代)

郵便振替口座 小樽四〇五五
北海道振替銀行本店 〇一七五九
北海道銀行本店 〇一四四四

発行人 八 木 健 三

印刷 札幌印刷株式会社